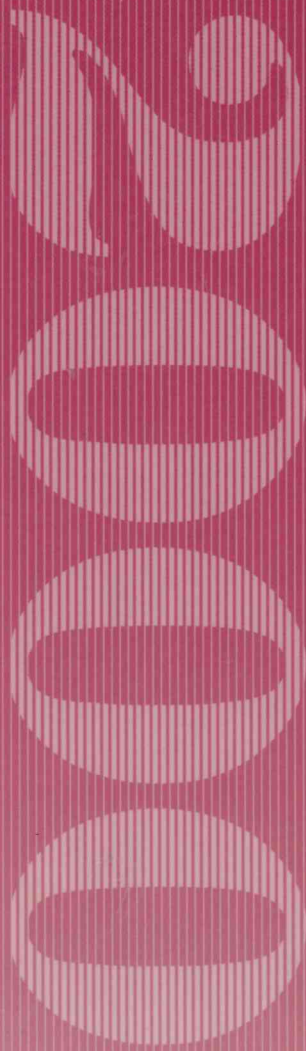




2000年度 履修要項

桃山学院大学

チがなされる。なお、「人権問題Ⅶ」についてはテーマ・副題が異なる場合、複数履修することができる。

【人権教育科目の履修方法】

全学部生とも、2単位を必修とする。上記の人権問題Ⅰ～Ⅶの中から1科目2単位（週1回半期）を選択し、履修しなければならない。

なお、入門的な概説では不十分と考え、さらに深く学びたいという学生の意欲に応えるため、「共通自由科目」の「歴史・社会系」の中に、「環境問題概論」「自然環境論」「環境と法」「環境と経済」などとともに、「部落問題論」「民族問題論」「障害者問題論」および「人権・環境問題特講」が設置されている。人権教育を補完するこれらの科目を受講することで、人権問題に対する、より一層の見識を得たいと思う学生は、積極的に受講することが望ましい。

(3) 外国語科目

【外国語科目の概要】

社会が国際化するにつれて、母語を異にする人々間でのコミュニケーションは、その必要性をますます高めてきている。英語をはじめ諸外国語の、読む能力（リーディング）・聴き取る能力（リスニング）・話す能力（スピーキング）・書く能力（ライティング）の、総合的修得がいっそう要請されている。大学での外国語教育は、高校までのどちらかといえば、個々の技能修得に分断された外国語教育（主に英語教育）の不充分さを克服し、いっそう高いレベルでの総合的運用能力の修得を目的とするものである。したがって、リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの能力を、バランスよく修得することが重要である。

本来、国際的なコミュニケーションは、自国文化と相手国文化との深い理解のうえに立たなければ、上すべりで底の浅いものになる危険性が高い。したがって大学では、外国語の総合的学習を通して、それぞれの外国語を母語とする国の文化がもっている、背景や現在の有り様を理解し、またそれぞれの国において、日本の社会や文化がどのように理解されているのかを学ぶことも、めざさなければならない。

また言語と思考活動との間には深いかわりがある。さまざまな学問分野の基礎である論理的思考能力を高めるためにも、外国語学習は欠かすことができない。さらに各学問分野の専門領域における、基本的な文献や専門書など、諸外国での達成を自らの知識として獲得するためにも、外国語の学習が必要なことはいうまでもない。

これらの観点から本学では、外国語科目を共通基礎科目に位置づけ、基礎的かつ総合的な語学力を着実に学生に確保させることを狙いとしている。したがって学生は、卒業要

件を満たすためには、外国語科目のなかから8単位以上を、選択履修しなければならない。

本学の外国語科目には、既修外国語科目（英語）と初修外国語科目およびその他に経済英語・ビジネス英語がある。初修外国語科目はドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、中国語、朝鮮語および日本語である。日本語は外国人留学生および帰国生のみを対象とする外国語科目である。

既修外国語科目（英語）と初修外国語科目は、それぞれグレード制を採用している。既修外国語（英語）は、大学英語入門、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲの4段階に分かれ、すべて1週1講時（2単位）の授業である。大学英語入門はAとBを、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲはそれぞれ「リーディング」「ライティング」「リスニング・スピーキング」を設置する。原則として、「大学英語入門A」「大学英語入門B」から段階的に進むものとする。学生の学力に応じて、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」など、より高度なレベルの科目の履修をもって、それぞれ「大学英語入門A」「大学英語入門B」、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」の履修に替えることができる。ただし、これら特進を希望するものは、資格の審査を必要とするので、あらかじめ所定の手続きを経なければならぬ。

大学英語入門A	基礎的なリスニングの能力強化を目的とする。
大学英語入門B	基礎的なリーディングの能力強化を目的とする。
英語Ⅰ（リーディング）	より長い文章で、読み方の技法・コツを学ぶ。
英語Ⅰ（ライティング）	書き方の基本を学ぶ。
英語Ⅰ（リスニング・スピーキング）	リスニングした内容を英語で表現する。
英語Ⅱ（リーディング）	テキストの批判的な読み方を学ぶ。
英語Ⅱ（ライティング）	比較的短い文章で、レポート・エッセイなどの書き方を学ぶ。
英語Ⅱ（リスニング・スピーキング）	リスニングをし、それにもとづいて英語で議論する。
英語Ⅲ（リーディング）	少し長めのまとまった内容のエッセイ・論文などを読んでいく。
英語Ⅲ（ライティング）	論文などの書き方を学び、実際に書いていく。
英語Ⅲ（リスニング・スピーキング）	特定のテーマについてスピーチをしたり、議論したりする。

初修外国語はそれぞれⅠとⅡの2段階に分かれ、Ⅰから履修しなければならない。初修外国語はⅠ・Ⅱとも、1週2講時（合計で4単位）の授業である。

経済英語、ビジネス英語はそれぞれⅠとⅡが設置されているが、グレード制を採用していないので、これらの科目の履修の順番や組み合わせは自由である。いずれの科目も1週1講時（2単位）の授業である。経済学やビジネスの世界で使われている英語は、独自の発展の歴史をもち、同じ単語でも一般に通用している意味とはまったく違う意味で使われ